

第二次多摩市読書活動振興計画 有識者会議 令和7年度第1回会議録

日 時：	令和7年7月30日（水）14：00～16：15
場 所：	多摩市立中央図書館 2階 活動室1

開会	
委員長	令和6年度末で3名が退任したため、欠員1として開催する。
	委員長から新任委員2名の紹介。新任委員の自己紹介。

1 副委員長の選任について	
委員長	令和6年度の副委員長退任により、新副委員長の選任をおこなう。自薦他薦はないか。
	なし
委員長	推薦がなければ、委員長から推したい。
	全員賛成
委員長	内容に入る前に、事務局から配布資料の説明をお願いします。
事務局	事前配布資料は9件、当日配布資料が1件ある。過不足はないか。

2 計画策定に向けてのスケジュール確認	
委員長	スケジュールについて、事務局から説明をお願いします。
事務局	資料に沿って説明。 大きなものとして本日の会議以降、8月に策定委員会にて原案決定、9月に教育委員会の決定となる。
委員長	委員からスケジュールに関しての質問はあるか。
	質問なし

3 各会議等の報告について	
委員長	令和6年度最後の有識者会議後の各会議について、事務局から報告をお願いします。
事務局	資料に沿って報告。 （前回の有識者会議後の委員からのご意見について、策定委員会、市民説明会、庁内意見等） 策定委員会に変更のあった点については、次の通り。 ・パブリックコメントで「障がい」という用語の使い方の意見があった。市の方針の確認したところ人にかかる場合は「障がい」、人にかからない場合は「障害」としているため、そのルールで統一する。 ・4章にコラムを掲載する ・各館ごとの記載がある箇所について、同じ意味の言葉が別の表現で書かれていたため統一する。
委員長	意見は議題4、5にて伺うが、説明内容に質問はあるか。
	質問なし

4 パブリックコメントの報告について	
委員長	パブリックコメントの結果について、事務局から報告をお願いします。
事務局	資料に沿って説明。

	紙での提出が2名、電子での提出が17名の計19名からご意見をいただいた。
委員長	委員1の当日資料について、パブリックコメントに触れているがいかかがか。
委員1	議題5でまとめて取り上げて頂くことで支障ない。
副委員長	意見対応表の43、館長の兼務の回答部分について、永山図書館長の記載に誤りがある。
事務局	修正する。

5 「第二次多摩市読書活動振興計画」原案（案）の内容について	
委員長	原案について、事務局から説明をお願いします。
事務局	新旧対照表や概要版も配布しているが、「原案」の方を中心に説明する。 資料に沿って説明。
委員長	今回、全体像が提示された。章ごとではなく、気づいたところから意見を頂戴したい。
委員1	当日配布資料を踏まえて何点か挙げたい。 ・経営会議などを通した結果「公共施設の縮小方針」の意図の織り込みを感じるようになった印象がある。コスト面ばかりが強調されるに任せるのではなく、それによって得られる効果も説明し、経営陣に図書館事業を改めて理解していただくことが大切。このままでは予算の確保も難しくなるのではないか。 ・原案にパブリックコメントを反映していくにあたって、これまでの市民との意見交換の流れを踏まえて回答を作成している部分もあるが、市民と対決という印象を受ける部分もある。全体に「市民と対話しながら計画を策定した」方向になるよう、表現に工夫が必要ではないか。 ・パブリックコメントでたくさんの意見が出ていることに対しては、特に丁寧に回答する必要がある。まず計画名称についての意見に対応した形で原案「はじめに」に説明が書かれているが、市民に名称を広めることより計画のコンセプトを理解してもらうほうが大切で、基本理念のような大切な部分を最初に出した方がいい。こうした視点に立って、「これまでの経緯」など計画の内容ではない部分の記載が多い「資料5-9の概要版」も、今後の市民向けの説明資料としては修正すべき。 ・市民の活動の記録を地域資料として取り上げてほしいという意見は尊重すべき。多摩市の地域資料はニュータウンの誕生に関わるものだけでなく、その後の発展も含まれるはずで、収集方針にも明記してほしい。 ・公共施設の見直しとも関連するが、「図書館政策の基幹部分については市職員による直営で継続性を担保する」は指定管理を導入する自治体も使っている表現。これでは市民の不安は拭えないのではないか。 ・職員体制のところに館長の複数館の兼務状況が記載されたことで、かえって固定化されないか心配である。また兼務の問題は「兼務によって、館長が兼務先の館の運営に十分関与できていないのでは」という意見と共にあったはず。関与が適切にできているかどうかは焦点なので、その部分に回答する必要がある。 ・レファレンスについて。所蔵の有無などのクイックレファレンスも含めて昨年度9万件超という数字だそうだが、国会図書館のレファレンス共同データベースへの登録件数を目標に掲げるだけでは、利用者の市民感覚から遠く、理解は得られないのではないか。書名の照会や所在の確認などクイックレファレンスと、時間をかけて調査したレファレンスとをきちんと区分・分析して、平素のサービス実態に合った取組として記載すべき。 ・「第三次子どもの読書推進市民ボランティア連絡会」について。パブリックコメントへの回答で計画の「施策への記載はしない」としながら、原案（案）第5章「計画の推進体制」の「P

	ＤＣＡ」の説明には入っている。施策に出ていない組織が急に出てきて唐突感がある。また、施策４－３に対するパブコメを受けて修正すると回答が出ているが原案に修正がない。 ・「利用者懇談会」の回答についても、「年２回にする」と「柔軟に対応する」とで分かれている。「柔軟に対応する」に合わせてはどうか。
事務局	・パブコメの回答は記載するしないを明確にする必要があり、冷たい印象の表現になってしまう部分があることをご理解いただきたい。 ・「利用者懇談会」は表現を統一する。 ・修正漏れについても対応する。
委員２	・「はじめに」の末尾の表現が「お手伝い」なのは前向きではない。「心豊かな地域を育みます」など基本理念に応じたものにしてほしい。 ・１４ページ：乳幼児の追記はありがたいが、並びも年齢順に整理してほしい。 ・２８ページ：「幼いころから～資料に出会う」の表現に違和感がある。幼児は自分から本を手に取りに行けない。大人が道案内をする必要があること、言葉を身に着ける土台を作る時期があることを入れてほしい。
委員３	３８ページ：地域資料の取り組み例のところ。デジタル化の目的は散逸を防ぐことではなく、利活用のためと整理したほうが分かりやすい。散逸防止については前段で述べているので余計に。
委員２	「第三次多摩市子どもの読書推進市民ボランティア連絡会」について。パブリックコメントの回答で明記したとあるが、巻末資料にこれまでの経過の記載がない。
事務局	巻末ではなく、「５４ページに記載がない」という部分への回答として「記載した」とした。
委員２	活動してきたことを、これまでの経過として巻末に掲載してほしい。
事務局	「第三次多摩市子どもの読書推進計画」は全部で４つの会議体が存在した。「第三次多摩市子どもの読書推進市民ボランティア連絡会」を掲載するのであれば、全ての会議体を同じレベルで掲載する必要がある。検討させてほしい。
委員２	会議の内容まで細かく載せる必要はなく、存在し、活動した事実がわかればよいので「何年に何回の連絡会を開催した」くらいでいい。
事務局	そのような形であれば、掲載できる。
委員４	・文言について。２ページ「計画の位置づけ」：国の計画のうち「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する基本的な計画」は「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する基本的な計画（２期）」となった。最新にした方がよい。 ・２０ページ：注記「読書バリアフリー」末尾「受けること」ではなく「受けることができる環境整備やサービスをすることです」の方がよりの確。 ・巻末９６～９７ページ：和暦（西暦）の表記と和暦のみの表記がある。意図があつてのことならよいが、そうでないなら統一した方がよい。 ・巻末９７ページ：「学校図書館図書水準」も入れていただけるとよりよい。
委員長	和暦と西暦の整理は事務局で対応願いたい。ここからは個別具体的なことだけではなく、計画全体について有識者の皆さんの意見を伺いたい。
委員５	全体として具体性に欠ける。いつまでに何をするのか、どこにお金・人員がかかるのかが大切。取り組みは「継続」や「新規」をはっきりさせないと、どこから手を付けるのか、どこに重点的にお金や人員を投入するのかわからない。例が必要なのではなく、いつまでに誰が何をするのかが必要。現状では空論でしかなく、民間企業であれば長や経営陣の理解は得られない内容。
委員長	事務局の考えをいただきたい。

事務局	5か年計画として記載している。行政は単年度で予算を計上しており、複数年の予算を伴う取組を計画に組み込むのは困難。この計画を基に年度ごとの計画を策定し、また、予算計上時に具体的な取組を経費とともに計画していく予定。
委員長	具体的な目標を掲げた計画にすべきという意見は、当初から示されてきた。また、取り組み事例が既存の活動ばかり列挙されていることに違和感があるのは同感である。「この計画は予算の根拠になり得るのか」が指摘いただいたことの本質であると考ええる。
委員 3	行政経験のある立場から発言する。この計画は「理念」として取り扱うもので、そこまで具体的な内容を求めるのは困難であると考ええる。
委員長	このように様々な立場からの意見を伺えることが有識者会議のよい部分である。
委員 1	現状では図書館協議会は5年全体を評価対象とはしない。単年度の事業計画を取りまとめる計画として、優先順位や評価の取り扱いなどを方向付けたうえで、評価することが望ましい。
委員 4	前々回も発言したが、初めて2つの計画を統合するもの。図書館外の取り組みも入れ込まれている。今後、第三次計画を立てるときになどに意識してほしいが、「多摩市立図書館として」の視点に偏っているのが問題であると言える。特に子どもの部分では「学校として」「学校図書館として」の視点を入れてほしい。
委員 6	大枠への意見は特にない。 33ページ：2つめの概要。ここだけ「多摩市教育委員会の一員として」となっている。当然のことなので、「〇〇を通して」などに変えるとよいのではないかな。
委員 7	あまり発言できなかったが、「学校」「学校図書館」「図書館」の関係について理解を深めるよい機会になった。
副委員長	「学校図書館」の大切さがあまり組み込まれなかったことを残念に思う。次の計画では子どもにとって第一の図書館である「学校図書館」主体のものが入るとよい。 書店数について、令和6年の最新データが出ているのでそちらに直した方がよい。
委員 8	保育園の立場から、乳幼児の表現が入ってよかった。子どもたちが絵本を大好きなのは現場で日々実感している。これからも図書館と関わりながら、変わらずにいられたらと思う。
委員長	名称と内容の不一致は、計画の主体が誰なのかはっきりしないことが問題ではないかと考える。例えば、1-1で視点が図書館に移ってしまっている。また、53ページの計画推進体制における評価について、図書館が主体的に取り組むことに異存はない。一方、市全体としてどう評価していくのかが記載されていない。本計画が市全体のものであるということがうまく表現できていない印象を覚える。
委員 3	2つの計画を統合したことで問題が発生している。主体も根拠法も違うので、すっきりまとまるはずがない。
委員 1	公共施設である以上、市民との対話から良いサービスを提供するという方向性にしてほしい。市民とともに作るものであって、行政の都合で作った計画と取られないよう、今後も表現や説明を考えてほしい。
副委員長	「はじめに」には「多摩市教育委員会」とある。教育委員会の計画であることを強調してほしい。次の計画に期待したい。
委員 4	次の計画では学校などの関連各課にも事務局に入ってもらえば、良くなると思っている。
委員長	時間となったので、閉会とさせていただきます。 事務局には耳の痛い意見もあったと思うが、有識者会議を通してよりよい計画の策定に貢献できたのではないかと考える。 委員の皆さんのご協力に感謝申し上げます。

事務局	沢山のご意見をいただくことができた。長い期間ご協力いただき感謝申し上げます。
-----	--

6 その他	
	連絡事項なし

閉会